

○名取市地域公共交通計画 進捗状況一覧

資料1-1

1. 発現する効果の評価指標

- (1) 地域公共交通の利用者数増加
- (2) なとりん号の収支改善
- (3) 市北西部の移動を支える広域幹線の維持
- (4) 来訪者数の増加

【R6末時点の指標達成状況】◎・・・目標値以上 ○・・・現状値以上 △・・・現状値未満

効果	指標名	単位	R1※	現状値 R3	目標値 R9	R4	R5	R6	達成状況	実施状況(令和6年度末の状況)	課題及び今後の予定等(令和7年5月時点)
(1)	なとりん号の利用者数 (デマンド交通利用者数も含む)	万人/年	46.5	40.5	46.0	41.7	50.3 (うちデマンド0.8)	58 (うちデマンド2.1)	◎	遅延時間と利用者の移動特性の分析を行い、ダイヤに反映した。 また、乗り方動画の作成・公表や、ガイドブックの分冊化を行い、なとりん号ガイドブックには系統番号を新たに表示、なとりんくるガイドブックは市内マップを一面で表示するなど利用促進につながるよう取り組んだ。	より適切な路線組みを行うため、電子決済サービス利用によるODデータ取得が必要である。
(2)	なとりん号の収支率 (デマンド交通利用者数も含む)	%	38.3	32.4	35.0	32.9	32.0	32.0	△	収支率については、令和5年度と同水準である。しかし、現状値(R3実績)と比較すると、障がい者や免許返納者等の利用者数が増加し、客単価が減少したことで収支率については、現状値以下となっている。 障がい者割引制度の見直しや、デマンド交通においては、乗合率向上による収支率改善を図るため、各種データの集計、分析に取り組んでいる。	現状、予約状況の可視化ができておらず、利用者にとって予約したいのに予約できないという状態にあることから、予約状況の可視化にむけ調整を行う。
(3)	宮城交通の市内運行路線の市内の利用者数	万人/年		27.2	経営の健全化	32.4	34.8	34.1		【宮城交通】 令和6年4月・10月にダイヤ改正を実施。利用実態に合わせた改正により利便性向上を図った。また、同じく10月に宮城交通と仙台市交通局の路線バスが1ヶ月8,000円で乗り放題となる通学定期券「せんだいバスFREE+」を発売し、利用促進を図った。 令和6年度は市内運行路線担当営業所にノンステップ車両新車両3両を配置。他にも全車ICカードシステム搭載、ビッグデータ分析によるダイヤ改善、バスロケーションシステム(どこバス仙台)運用、MaaS参画(デジタルチケット)、新紙幣・新硬貨対応、環境定期券制度、各種交通安全運動への取り組み、各種先進安全技術の導入、健康経営、ESG経営等に取り組んでいる。	【宮城交通】 市内路線は全線赤字に加え、運転士不足が深刻。事業者の自助努力やモビリティ・マネジメントでは維持できない状況に陥っている。需要のある時間帯であってもダイヤ編成の見直しを進めざるを得ない。
(3)	宮城交通の市内運行路線の本市外も含めた路線全体の利用者数	万人/年		99.1	経営の健全化	112.2	120.2	120.3		【名取市】 令和6年度は、「ゆりが丘地区のまちづくり協議会」を3回実施。交通分野に関する取組について継続的に検討していくこととなった。 高館小学校の生徒を対象に将来の進学等による通学を見据えて、バスの乗り方教室を実施した。	【名取市】 宮城交通が運行する高館熊野堂地区の面整備に向け、関係機関と連携し、引き続き区画整理事業を進めていく。 また、引き続き、市内小学校を対象に、バスの乗り方教室を実施し、モビリティ・マネジメントの観点での取組の推進に努めていく。 ゆりが丘地区においてもまちづくり協議会を継続し、公共交通も含めたまちづくりについて、住民主体による検討の促進を図る。

(3)	宮城交通の市内運行路線の全体収支率	%		67.3	経営の健全化	74.8	78.3	81.7		<p>【宮城交通】 尚綱学院大線(西中田経由)の一部運行を子会社(株式会社ミヤコーバス)へ委託し、経費の削減を図っている。 燃料・物価高騰のあおりを受け費用が増加。令和7年3月に運賃改定を実施してもなお、赤字が深刻である。</p> <p>【名取市】 10月に宮城交通と意見交換を実施し、同社の状況や、他自治体の支援策等について情報共有を行った。</p>	<p>【宮城交通】 市内運行路線は、宮城交通路線バス全線の中でも特に赤字額が多く、事業者の自助努力だけでは維持が困難になっている。収支改善のため、引き続き減便等効率化を検討する。</p> <p>【名取市】 今後も国からの交付金等の動向を注視しながら、宮城交通との情報共有、連携を図っていく。</p>
(4)	観光入込客数	万人/年	120	127.9	136.0	145.6	152.7	159.5	◎	<p>夏まつりやゆりあげ港朝市の来場者数が増加。また、民間のBBQ施設やイチゴ狩り施設のオープンにより全体的に増加傾向となったことで目標値以上の着地となった。</p>	<p>今後も観光物産協会や各観光施設と連携し、観光誘客に取り組んでいく。</p>
(4)	なとりん号 閑上線利用者数	人/日	108	115	122	122	198	226	◎	<p>観光マップである「閑上マップ」に閑上線の情報を掲載し、利用促進を図った。 全体の利用者が増えたが、仙台空港-閑上間の利用者数が少なかった。</p>	<p>仙台空港において新たに香港便が就航したことからインバウンド需要が高まっており、観光客が利用しやすいよう、フライトの時間等を見込んだダイヤの設定や、仙台空港-閑上間の往復便の設定等について検討していく。</p>

※令和元年度の数値は、参考地として新型コロナウイルス感染症の拡大前の数値を記載したものの。

# ○名取市地域公共交通計画 進捗状況一覧

【R6末時点の指標達成状況】◎・・・目標値以上 ○・・・現状値超 △・・・現状値以下

## 関連する評価指標

方針	施策	事業NO	指標名	単位	R1※	現状値(R3)	目標値(R9)	R4	R5	R6	達成状況 (進捗率)	実施状況(令和6年度末の状況)	課題及び今後の予定等(令和7年5月時点)
1 多様な交通モードの連携・協力による利用しやすい交通ネットワークの構築に関する事業	1 なとりん号の再編	1-1	公共交通による人口カバー率	%	/	87.4	100	87.4	100	100	◎	デマンド交通「なとりんくる」の継続運行により、引き続き市内全域をカバー。運行状況の分析及び広く意見・要望を募り、目標値の達成のみならず利便性の向上に寄与した。	引き続き運行状況の分析、意見・要望を募ることとし、持続を図る。
		1-1	なとりん号の収支率 (デマンド交通利用者数も含む)	%	38.3	32.4	35	32.9	32.0	32.0	△	運行状況の分析及び利用者からの意見・要望をもとにR7.4.1からのダイヤ改正を行った。また、各事業者と定期的に打合せを行うなど、連携し詳細な分析を行えるような体制づくりに取り組んだ。	現状値と比較し、利用者数においては増加しているが、障がい者や免許返納者等の割引適用者の利用も増えていることから客単価が減少し、収支率が基準値以下となっているため、障がい者割引の適正な負担割合について検討を行い、収支改善に取り組む。
		1-1 (1-2) (5-1)	なとりん号利用者数 (デマンド交通利用者数も含む)	万人/年	46.5	40.5	46.0	41.7	50.3	58 (うちデマンド2.1)	◎	運行状況の分析及び利用者からの意見・要望をもとにR7.4.1からのダイヤ改正を行った。また、各事業者と定期的に打合せを行うなど、連携し詳細な分析を行えるような体制づくりに取り組んだ。	R7.4.1に改正したダイヤにおいて、愛島線を含め大幅な遅延は大幅に減少した。今後も引き続き分析、意見・要望の収集に努める。
	2 交通結節機能の強化	2-1	交通結節点での乗降客数 (名取駅前・名取駅西口)※ 平日	人/日	/	964	1,100	未集計	1016	1132	◎	鉄道会社と連携し、鉄道のダイヤが変わる際には事前の共有を図り、バスダイヤを設定している。また、名取駅改札口付近にデジタルサイネージを設置、バスの時刻表を掲載し、乗り継ぎを行いやすい環境の整備を行った。	引き続き、鉄道会社と連携し、鉄道のダイヤが変わる際には事前の共有を図り、バスダイヤを設定していく。
		2-2	バス停の整備件数	件	/	0	1	0	0	0	△	利用者等から要望が無いことから、設置に至っていない。	今後も引き続き要望や意向を確認しながら、必要に応じて検討していく。
		2-3	対象駐車場の利用件数 (パーク&ライド)	台/年	32	41	70	42	51	55	○	仙台空港鉄道と情報共有を行いながら、名取市HP及び都市計画課窓口でのチラシにて、市民等への情報案内を継続中。増加傾向にある。	名取市HP案内情報の更新 都市計画課窓口でのチラシ設置
	3 の導入	3-1	事業者意見交換会の実施回数	回/年	/	0	2	0	2	2	◎	なとりんくると名取市公式アプリ「ナトぼた」の連携について、システム事業者間で検討を行った。また、デマンド交通の予約システムやバスロケーションシステム等と連携した市民サービス拡充に向け、関係者間の意見交換会を実施した。	今後も引き続き意見交換等実施し、各事業者の意見・課題を整理し、MaaSに関する技術的な情報収集を継続するとともに、MaaSの実装に向けた検討を実施していく。
	4 観光と地域公共交通の連携	4-1	観光と連携したツアーの企画件数	件	/	0	4	0	0	3	○	地域観光新発見事業の中で「名取市グルメライン堪能の旅」として、バスを利用したモニターツアー「オトナの遠足ツアー」と「名取のグルメ体験ツアー」の2件を造成した。また、サイクルツーリズム推進事業では「なとりんサイクリング2024」として、市が選定した観光スポットを自転車で周遊するイベントを開催した。	観光関係者や交通事業者と連携し、バス、自転車などを利用したツアー造成に向け検討していく。
		4-1 (4-2)	名取市内の観光入込客数	万人/年	120	127.9	136.0	145.6	153	160	◎	夏まつりやゆりあげ港朝市の来場者数が増加。また、民間のBBQ施設やイチゴ狩り施設のオープンにより全体的に増加傾向となったことで目標値以上の着地となった。	今後も観光物産協会や各観光施設と連携し、観光誘客に取り組んでいく。
		4-2	アクセス手段となる公共交通利用者数(閑上線利用者数)	人/日	108	115	122	122	198	226	◎	観光マップである「閑上マップ」に閑上線の情報を掲載し、利用促進を図った。	今後は、仙台空港からのインバウンド需要に対応すべく、ダイヤの見直し等検討していく。

方針	施策	事業NO	指標名	単位	R1※	現状値(R3)	目標値(R9)	R4	R5	R6	達成状況(進捗率)	実施状況(令和6年度末の状況)	課題及び今後の予定等(令和7年5月時点)
2 多様な交通モードの連携・協力による利用しやすい交通ネットワークの構築に関する事業	5 地域公共交通の維持・確保	5-1	宮城交通対象路線の名取市内の乗降客数	万人/年		27.2	経営の健全化	32.4	34.8	34.1		【宮城交通】 令和6年4月・10月にダイヤ改正を実施。利用実態に合わせた改正により利便性向上を図った。また、同じく10月に宮城交通と仙台市交通局の路線バスが1ヶ月8,000円で乗り放題となる通学定期券「せんだいバスFREE+」を発売し、利用促進を図った。 令和6年度は市内運行路線担当営業所にノンステップ車両新車両3両を配置。他にも全車ICカードシステム搭載、ビッグデータ分析によるダイヤ改善、バスロケーションシステム(どこバス仙台)運用、MaaS参画(デジタルチケット)、新紙幣・新硬貨対応、環境定期券制度、各種交通安全運動への取組み、各種先進安全技術の導入、健康経営、ESG経営等に取り組んでいる。 【名取市】 令和6年度は、「ゆりが丘地区のまちづくり協議会」を3回実施。交通分野に関する取組について継続的に検討していくこととなった。 高館小学校の生徒を対象に将来の進学等による通学を見据えて、バスの乗り方教室を実施した。	【宮城交通】 市内路線は全線赤字に加え、運転士不足が深刻。事業者の自助努力やモビリティ・マネジメントでは維持できない状況に陥っている。需要のある時間帯であってもダイヤ編成の見直しを進めざるを得ない。 【名取市】 宮城交通が運行する高館熊野堂地区の面整備に向け、関係機関と連携し、引き続き区画整理事業を進めていく。また、引き続き、市内小学校を対象に、バスの乗り方教室を実施し、モビリティ・マネジメントの観点での取組の推進に努めていく。 ゆりが丘地区においてもまちづくり協議会を継続し、公共交通も含めたまちづくりについて、住民主体による検討の促進を図る。
		5-1	宮城交通市内運行路線の全体利用者数	万人/年		99.1	経営の健全化	112.2	120	120			
		5-2	移動需要を喚起する取組件数	件年		0	2	0	1	3	◎	令和2年度から実施している「名取・仙台沿岸部周遊キャンペーン」事業の中で、謎解きイベントのスポットの1つとして、なとりん号及び仙台市で運行した「せんだい海手線ループバス」を活用した。 また、なとり夏まつり開催日は仙台空港アクセス線の利用が増えるため、仙台空港鉄道(株)と連携し、車両の増結を行った。 名取秋まつりにおいては、なとりんくる利用登録ブースを設け、喚起を行った。	今年度実施予定のブルーーツーリズム推進支援事業の中で、移動手段としてなとりん号の利用を周知し、移動需要を喚起する予定。引き続きイベント開催時等には移動需要喚起のための取組を行うとともに、平時の普及啓発にも努め目標値達成を図る。
		5-3	本協議会等を通じた意見交換回数	件年		0	2	0	2	2	◎	仙台市名取市広域行政協議会では沿岸部のシェアサイクル事業等、周遊や集客に関する交通移動等について、意見交換を行った。 富谷市で開催されたセミナーにてデマンド交通の意見交換等を行った。	6月に仙台市名取市広域行政協議会を開催予定。引き続き、沿岸部の回遊手段の整備に関し、各自治体の取組等の情報共有を行い、連携を図っていく。
	6 輸送資源の総動員への備え	6-1	取組団体との意見交換回数	件年		0	2	0	0	0	△	地元スーパーマーケットが山手団地や閑上地区等で運行しているお買い物バスについて、令和5年度から引き続き、買い物困難者に対する支援として継続運行のための補助を交付。毎月平均約670人(累計)の方が乗車しており、買い物困難者の移動の確保に繋がっている。	令和4年からお買い物バスを運行している地元スーパーマーケットについて、令和7年度についても継続運行を実施すること。引き続き利用状況等を確認していく。 また、別の市内事業者において、令和5年度から名取市内に約50停留所を設置し、各停留所を移動して食料品や日用品を販売を行うため、その取組を引き続き支援する予定。
		6-1	他都市事例の調査・研究件数	件		0	5	0	0	0	△		
	7 の 貨客混載 の 検討	7-1	検討に向けた意見交換回数	回		0	5	0	1	1	○	運行事業者との定例打合せにおいて可否について検討を行ったが、なとりん号・なとりんくるとも、運行に余力がないため困難な現状であった。	今後も引き続き打合せの中で現状を確認し、需要を見ながら検討していく。

方針	施策	事業NO	指標名	単位	R1※	現状値(R3)	目標値(R9)	R4	R5	R6	達成状況(進捗率)	実施状況(令和6年度末の状況)	課題及び今後の予定等(令和7年5月時点)
3 未来につながる地域公共交通の利用促進	8 モビリティ・マネジメントの実施	8-1	学校モビリティ・マネジメント実施回数	件年		0	3	0	2	2	○	下増田小学校で、3年生を対象に仙台空港の見学に併せて、電車の乗り方の学習を実施。切符の買い方、改札の使い方、ホームでの待ち方、椅子の座り方など、ルールやマナーについての学習を行った。 また、高館小学校にて乗り方教室を実施した。	信号の無い交差点での児童生徒と自家用車との接触事故が4月で2件あり、互いに停車・停止するだろうという意識でいたことが原因であった。各学校に、交通安全教室だけでなく、全校での集会の機会に指導してもらおう。 今後は学校側から申出があれば対応できるよう出前講座にて引き続き実施することとし、さらなる拡充に向け取り組む。
		8-2	住民モビリティ・マネジメント実施回数	件年		0	2	0	2	1	○	10月に野来集会所にて出前講座を実施し、なとりん号・なとりんくるの概要や利用方法等について説明を行った。	今後も引き続き実施することとし、出前講座に関わらず申し出があれば町内会等においても実施していきたい。
		8-3	エコ通勤認証事業者数	件	0	0	5	0	1	1	○	市民や市内事業所への公共交通利用促進の働きかけに先立ち、令和5年度に引き続き令和6年6月から令和6年11月までの6カ月間、市職員による公共交通チャレンジデーを実施。 月2日程度として、①毎月給料日及び、②市役所庁舎、近隣公共施設等でのイベント開催により混雑が予想される日をチャレンジデーに設定し、公共交通利用促進を図った。 しかし、上記の取組が、市内事業者へ波及せず、新たな「エコ通勤優良事業所」の認証・登録には至らなかった。	昨年度から引き続き行った公共交通チャレンジデーのアンケート調査では、参加率は27%と前年と比べ大きな伸びはなかった。また、時差出勤等の配慮やインセンティブの付与があれば参加しやすい等の意見があり、これらの意見に対して、市として対策を行えるのか、検討し、改善しながら引き続き市役所内の公共交通利用促進を目指していく。 また、市内事業者への、本取組について周知する機会が不足している為、協議会等を通し、啓発活動を行っていく必要がある。
	9 した環境に配慮の取組	9-1	他都市事例の調査・研究件数	件		0	5	0	0	0	△	富谷市が主催するセミナーに参加し、富谷市、県、宮城交通が連携して進めた「燃料電池バス」の導入に係る取組について聴取した。 また、令和6年8月に静岡県からのAIデマンド交通に関する視察を受け入れた際に静岡県静岡市では「燃料電池バス」を導入した事例があると聴取した。	引き続き、セミナーや意見交換会、協議会等に参加し、先進的な取組を調査し、機会を捉えて他自治体からの聞き取り等により調査する。